

1 単元名 跳び箱運動

2 運動の特性

(1) 機能的特性

今できる技で大きく安定させて跳び越したり、新しい技に挑戦したりして楽しむ運動である。

(2) 構造的特性

跳び箱運動は、踏み切りから着地までを一連の運動として、その中で自分の体を多様に操作する運動である。

(3) 効果的特性

跳び箱運動は、腕で体を支える感覚や、体を空中で安定させる感覚、衝撃を抑えた着地の感覚を養うことができる運動である。

(4) 子どもから見た特性 (男子 19 名 女子 18 名 計 37 名)

A 運動の楽しさの体験状況

① 体育の学習は好きですか。

とても好き	好き	嫌い	とても嫌い
25名	11名	1名	0名
体を動かすのが好き	19名	苦手なものが多いから	1名
できないことができるようになるから	7名		
体を動かすと気持ちがいい	3名		
みんなと一緒に学習できるから	2名		
普段やらないことができるから	1名		
好きな運動があるから	1名		
工夫するのが楽しい	1名		
普段遊ばない人と一緒に運動できるから	1名		

② 跳び箱運動は好きですか。

とても好き	好き	嫌い	とても嫌い
14名	14名	6名	3名
跳ぶのが気持ちいいから	9名	跳べなくて失敗すると痛いから	1名
高い段が跳べるとうれしいから	5名	低い段しか跳べないから	1名
跳べるとうれしいから	4名	高いと途中で止まってしまうから	1名
跳ぶのが楽しい・おもしろいから	4名	全然跳べないから	2名
跳ぶのは好きだが、失敗が痛くて怖いから	2名	高くて怖い	1名
跳んだ後の着地が好きだから	1名	大けがを目の当たりにして怖い	1名
跳べると達成感があるから	1名	跳べたことがない	1名
ジャンプ力が上がるから	1名		
けがをしてから少し怖くなったから	1名		
挑戦することが楽しいから	1名		

③ 跳び箱運動で楽しかったとき、楽しくなかったときはどんなときですか。

(自由記述・複数回答)

楽しかったとき		楽しくなかったとき	
高い段を跳んだとき	20名	跳べないとき	18名
跳べたとき	4名	失敗したとき	10名
上手になったとき	4名	けがをしたとき	6名
新しい技ができたとき	2名	準備が遅いとき	1名
何回か跳べたとき	2名	低い段しか跳べないとき	1名
友達と活動するとき	1名	危ない思いをしたとき	2名
馬跳びをしたとき	1名	上手に跳べないとき	1名
目標が達成できたとき	1名		
きれいに跳べたとき	1名		
きれいに着地ができたとき	1名		
繰り返し跳ぶことが楽しい	1名		

B 運動の楽しさを求める学び方の体験状況

① 体育の学習の中で、自分に合っためあてをもつことができますか。

自分で考えてもてる	友達と一緒にならもてる	資料やアドバイスがあればもてる	もてない
26名	4名	6名	0名

② 学習を進める中で困ったらどうしますか。(自由記述・複数回答)

友達に聞く	15名	努力する	3名
友達や先生に聞く	13名	資料を見る	1名
先生や友達に聞く	3名	自分で工夫する	1名
自分で考える	3名		

③ 学級の仲間と教え合ったり、協力して学習したりすることができますか。

誰とでもできる	同生の友達とならできる	仲のよい友達とならできる	自信がない
19名	14名	3名	1名

④ 跳び箱の学習をする際、大切なことはどのようなことだと思いますか。

(自由記述・複数回答)

安全に気を付けること	19名	努力すること	2名
協力すること	7名	挑戦する気持ちをもつこと	2名
楽しむこと	5名	跳び箱を怖がらないこと	2名
ルールを守ること	4名	準備を丁寧にする	1名
準備運動をしっかりやること	4名	話を聞くこと	1名
集中すること	3名		

⑤ 跳び箱の学習をどのような学習にしていきたいですか。(自由記述・複数回答)

楽しい学習	18名	跳び箱が好きになる学習	2名
協力し合える学習	8名	目標が達成できる学習	1名
安全な学習	8名	今までやっていないことに挑戦したい	1名
上手になれる学習	5名		

【考察】

A 運動の楽しさの体験状況について

本学級の子どもたちは、概ね体育の学習が好きな傾向にある。唯一、嫌いと答えた子どもも、休み時間は多くの友達と元気に外で遊んでいる。19名の子どもが、体を動かすことが好きと答えているように、体育の授業に対してはとても意欲的である。休み時間には、ほとんどの男子が毎日外遊びをしているが、反対にほとんどの女子が外に出て遊ぶとしない。

跳び箱運動に対しては、9名の子どもが嫌いと答えている。好きな子どもの理由と、嫌いな子どもの理由を見ると、「跳べるから楽しい」「跳べないから楽しくない」と感じている傾向が見られる。さらに、自分と他者の比較によって、自分を「できない」と思い込んでいる子どももいる。また、跳ぶこと自体に心地よさを感じている子どもも多い。さらに、これまでの学習で、高さにこだわって学習をしてきたことがわかる。しかし、そのことで、学習の楽しい、楽しくないが決まってしまうことが感じられる。また、けがに対して気を付けていきたいと考えている子どもは半数程度いる。

そこで、「跳べる」ことを大切にしながら、跳び箱運動の楽しさが、技が「できる」、「できない」の価値判断だけではないということを、単元を通して伝えたい。技は跳び箱を跳び越えるために考えられた方法であり、文化として伝わってきたこと（新しい跳び越し方には、考えた人の名前がつく）や、様々な空中での身体操作の方法が技と呼ばれているということに触れる。自分なりにできることを積み重ねていく喜びの中で学習を進め、跳び箱運動の楽しさを広げていきたいと考える。学習を通して、結果的に伝承されてきた技を身に付けていることをねらっている。

まずは、自分の体が浮いたり、止まったりしたときに感じるおもしろさに十分に浸らせるところから授業を進める。技が「できる」「できない」だけにとらわれることなく、自分の体が浮いている感覚や止まる感覚を改めて十分に味わわせて行きたい。また、身体感覚に目を向けることで、「大きく跳び越していくためにどうするのか」、「安定して着地するためにはどうするのか」を考えることにつながり、高さへの欲求もかなえられるだろう。身体感覚を味わうおもしろさを追求することで、技を大きくしたり、安定して跳び越したりすることを身に付けているようにしたい。

B 運動の楽しさを求める学び方の体験状況

自分で考えてめあてをもつことができると、26名が回答している。また、何らかの支援があることで、子どもたちはめあてをもつことができる。めあての内容についてはこれまでの学習の様子から、子どもによって差は見られる。

困ったことがあると、子どもたちは話し合っ解決しようとする。これまでの学習でも、グループを作ると男女関係なく話し合う姿が見られた。しかし、グループが決められていないと、同性や仲のよい友達としか、かかわりをもてない。

子どもたちは、跳び箱運動の学習をする上で、安全にけがなくやりたいことや、仲間と協力して学習したいという願いをもっている。

以上のことから、自分でめあてをもてない子どもたちのため、跳び箱運動の構造に目を向けられるように、毎時、授業の始めにいくつかの視点を子どもたちに与える。また、本単元では、跳び箱運動を、踏み切りから着地までの一連の動作の中で、「いかに体を浮かすことができるか」、「どうやったらピタッと止まれるか」を子どもたちの共通のテーマとして取り組んでいく。めあて①では、身体感覚を味わい夢中になって跳び箱運動を楽しむ中で、お互いのコツをすり合わせ、自分なりのコツを学習の中で見つけ、クラス共通のコツも見つけさせていきたい。そして、めあて②では、そのコツを使ってもう少しでできそうな跳び越し方に挑戦させていく。その際、恐怖心を和らげ、安全に学習を進めるためにも、水深調節台やステージを活用し、安全・安心な場を作っていきたい。

C 運動に関する技能の習得状況

4段から6段までの跳び箱を用意し、自由に跳び箱運動を行う中で実態を調べた。

多くの子どもたちは、開脚跳びを楽しんでいた。男子の10人程度の子どもたちは、開脚跳びで第一空間を広げることを楽しんでいる様子が見られた。また、回転技に取り組んでいる子どもが2名いた。かかえ込み跳びに取り組む子どもも見られたが、何度も跳び越す様子は見られなかった。これまでの学習では、開脚跳び以外の技にあまり取り組んでいない様子がかえった。

踏み切りでは、足のそろわない子どもが数名いた。また、着手で自分の体の勢いを押さえてしまう子どもも見られた。着地については、ほとんどの子どもが意識していない。体を浮かすことのおもしろさはある程度感じられているが、体が浮いている状況から体を安定させること（着地）に面白さを感じているのは、2名ほどだった。

これらの実態を踏まえ、身体感覚を十分に味わわせる中で、踏み切り、着手、着地への意識を高めていきたい。その結果、いろいろな跳び越し方や大きく安定した跳び越し方ができるようにしたい。

3 視点と学習の手立て

(1) 市教研小学校体育部研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 学習の手立て

視点1

子どもの実態を的確に把握し、運動の特性と指導内容を明確にした上で、子どもたちが学習意欲や目標をもって取り組めるよう道すじを工夫する。

〈手立て〉

○ 身体感覚を大切にしたい道すじ

子どもたちは、これまでの学習経験で、身体感覚を十分に味わえていないことから、めあて①では、体を浮かすおもしろさや着地の際、体を安定させる面白さを味わう時間を十分に確保する。

さらに、跳び箱運動の構造的特性や効果的特性に注目し、「一連の動作の中で、いかに体をフワッと浮かしたり、クルッと回ったりすることができるか」、「どうやったらピタッと止まれるか」について、子どもたちに問いかけていくことで、子どもなりのコツを見つけていく。見つけたコツを学級で共有していくことで、大きく安定させた跳び越し方や、技の習得につなげていきたい。

また、めあて②では、もう少しでできそうな跳び越し方に挑戦していく。めあて①で味わった身体感覚や、共有したコツを手がかりにして、取り組ませていきたい。

技の習得のために練習するのではなく、体を浮かすおもしろさや着地のおもしろさを十分に味わいながら踏み切り・着手・着地の一連の動きを身に付けたことで、もう少しでできそうな跳び越し方に挑戦し、技の習得につなげていきたい。

視点2

一人一人のよさを伸ばす学習を進めるための手立てを工夫する。

〈手立て〉

○ 身体感覚を味わわせる場の工夫

感覚を味わうために、動きを誇張できるような場を作る。トランポリンやロイター板、ステージ等を活用し、浮く感覚や止まる感覚を十分に味わわせたい。ステージ下にはセーフティマットを置いたり、安定させるために中学校用の大きな跳び箱を使ったりする等、安全面に十分配慮する。

【浮く感覚】

第一空間の浮きを味わわせる場

- ・トランポリンやロイター板を使って、ステージに飛び乗る場

第二空間の浮きを味わわせる場

- ・ステージ上の跳び箱から跳び下りる場

【止まる感覚】

着地で止まる感覚を味わわせる場

- ・セーフティマットへの跳び下り
- ・跳び箱からの狙い跳び下り、回転跳び下り

○ 掲示物の工夫

子どもなりのコツや、味わった感覚を共有できるようにしていく。自分のコツだけでなく、友達のコツも意識しながら取り組むことで、より自分のコツが見えてきたり、友達のコツが自分のものへと変わったりすると考える。友達と同じ目線に立ってコツを見つけていく中で、意見交換も活発に行われるだろう。友達とのかかわり合いを通してコツを精選し、身体感覚の高まりや技の習得につなげていく。

技の資料については、これまで経験してきた既習の技も多いが、全員に提示するのではなく、その技に目が向いてきた時点で紹介をしていく。技ができたから楽しい、できないから楽しくないではなく、体を浮かすおもしろさや着地するおもしろさを味わった結果として、技の習得を目指したい。

視点3

一人一人の子どもが意欲的に学習に取り組む評価の工夫をする。

○ 自己受容感を高めるワークシート

個人での高まりを自己評価し、記録として残していく。味わえた感覚や、楽しかった度合いを数値化し残していくことで、自己の変容を感じることができるだろう。

また、その数値から、教師が子どものつまづきや飽和している状態に気付き、一人一人に合った支援に生かしていく。

4 学習のねらいと道すじ

(1) 学習のねらい

- 今できる飛び越し方で「フワッと」「クルッと」「ピタッと」する感覚を楽しんだり、もう少しでできそうな飛び越し方に挑戦したりして楽しむことができる。

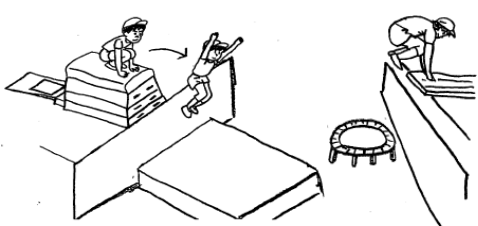
(2) 学習の道すじ (本時4 / 7)

	1	2	3	④	5	6	7
オリエンテーション		めあて① 今できる飛び越し方で「フワッと」や「クルッと」、「ピタッと」する感覚を楽しむ。					
		めあて② もう少しでできそうな飛び越し方に挑戦して楽しむ。					
関・意・態	○	○		○		○	
思・判			○	○	○	○	○
技能			○				○

5 評価規準 (おおむね満足できる状況)

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ○夢中になって浮く感覚や止まる感覚を味わい、楽しもうとしている。 ○友達と協力して、準備や後片付けを行おうとしている。 ○約束やきまりを守ろうとしている。 ○安全に留意しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のめあてを意識して学習に取り組んでいる。 ○自分なりの運動のコツを考えようとしている。 ○自分のめあてを達成するために、共有したコツを生かしたり、場を選んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分なりの飛び越し方に取り組み、大きく安定した動作で飛び越すことができる。 ○もう少しでできそうな技に挑戦し、飛び越すことができる。

6 学習活動と支援（本時4／7）

<p>はじめ</p> <p>1</p>	<p>1 オリエンテーションをする。</p> <p>○学習のねらいを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <p>○安全・マナーについて理解する。</p> <p>○学習カード、学習資料の活用方法について理解する。</p> <p>○場づくりについて理解する。</p>	
<p>なか</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>④</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p>	<p>学習内容と活動</p> <p>1 学習の場づくりをして、準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自で必要な部位を考え、意識的にストレッチをする。 ・ウサギ跳び ・馬跳び（手たたき、ひねり、馬はじき） ・跳び乗り、跳び下り ・横跳び越し <p>2 本時のめあてと学習の進め方を確認する。 （味わわせたい感覚や気付かせたいコツについての問いかけの例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・からだがフワッと浮く感じ、ピタッと止まる感じとはどんな感覚だろう。 ・フワッと浮くためのコツは何だろう。 ・どんな踏み切り方がよいのだろう。 ・一連の動きの中で、どこでフワッと浮くのだろう。 ・跳び方が変わると、手の着き方は変わるのだろうか。 ・着手は、かいた方と突き放した方のどちらがよいのだろう。 <p>3 めあて①の活動をする。</p>	<p>教師の支援（○）・評価（◇）</p> <p>○準備する場を決めておき、協力して行うように声をかける。</p> <p>○一つ一つの活動で、どんな感覚が味わえているのかを意識させ、感覚を楽しむことができるよう助言する。</p> <p>◇友達と協力して準備しようとしている。 【関心・意欲・態度】</p> <p>○めあてがもてない子どもが、めあてをもてるように、いくつか今日の視点を示す。</p> <p>○どうすれば体が浮くのか、ピタッと止まるのか、それぞれのコツを考えながら学習に取り組むよう声をかける。</p> <p>◇自分のめあてをもって、学習に取り組もうとしている。 【思考・判断】</p>
<p>めあて① 今できる跳び越し方で「フワッと」や「クルッと」、「ピタッと」する感覚を楽しむ。</p>		
<p>〈予想されるめあてと活動の例〉</p> <p>○もっとフワッとする感覚を味わいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トランポリンを使ったり、ステージの上から跳んだりしてみよう。 	<p>○めあてを確認しながら、共に活動し、必要に応じて助言する。</p> <p>○場の安全を確保して、学習を進めるよう指導し、必要に応じて補助したり、補助の仕方について指導したりする。</p> <p>○子どもの感じていることを聞きながら、教師もやってみて感じたことを伝えたり、他の仲間が感じていたことを伝えたりする。</p> <p>○子どもが視覚的に、浮いた感じを見て捉えられ</p>	

- どうやったらフワッと体が浮くかどうかいろいろ試してみよう。
 - ・踏み切りの強さを変えて跳ぼう。
 - ・踏み切る向きを意識して跳ぼう。
- 踏み切りを、思い切り強くやって体を浮かそう。
 - ・ロイター板を使って跳ぼう。
- 踏み切りのコツを意識して、大きく跳び越したい。
 - ・強く踏み切って、体を浮かして跳ぼう。
 - ・踏み切り板に飛び込んで、体を浮かせて跳ぼう。
- フワッと大きく跳び越して、ピタッと着地したい
 - ・開脚跳びでやってみよう。
 - ・かかえこみ跳びでやってみよう。

ることを求めるようであれば、マーカーシートを用意したり、踏み切り調節板の数に意識を向けさせたりする。

- 自分なりのコツが見つげにくい子どもには、掲示資料を見るように促し、友達のコツから、自分のコツを見つけられるよう助言する。
- コツを探しながら学習を進めている子どもを賞賛し、コツの共有を図る。

◇夢中になって、浮く感じや、止まる感じを味わい、楽しんでいる。 【関心・意欲・態度】

◇自分なりの運動のコツを探している。 【思考・判断】

◇自分なりの跳び越し方に取り組み、大きく安定した動作で跳び越すことができる。 【技能】

4 めあて②の活動をする。

めあて② もう少しでできそうな跳び越し方に挑戦して楽しむ。

〈予想される跳び越し方と活動や場の例〉

- かかえこみ跳び
 - ・跳び箱にぶつかりそうだから、セーフティマットを敷いてやろう。
 - ・ステージの上に跳び乗るところからやってみよう。
- 台上前転
 - ・落ちるのが怖いから、水深調節台でやってみよう。



- ・安全に回れるように、横にセーフティマットを敷いてやってみよう。
- ・ステージの上でも回れるかな。



- 必要な場を協力して作るよう声をかける。
- 活動と場が合っているのかを確認し、必要に応じて助言する。
- 跳び越し方について、友達同士で伝え合ったり、掲示物を見ながら確認したりして、いろいろな跳び越し方で楽しめるよう助言する。
- 共有したコツや自分なりのコツを生かして活動できるように助言する。
- 場を変えて、新しい跳び越し方を試してみるように助言する。

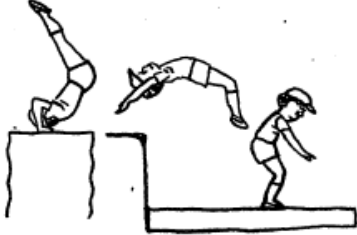
○子どもの跳び越し方に合わせ、必要に応じて補助したり、補助の仕方を指導したりする。

◇自分のめあてを達成するために、共有したコツを生かしたり、場を選んだりしている。

【思考・判断】

◇もう少しでできそうな技に挑戦し、跳び越すことができる。 【技能】

- かかえこみ跳びに対する支援
 - ステージに跳び乗る場で、着手した場所よりも足が前が出るように声をかけ、浮く感覚を大切にしながら切り返すことができるようにする。

<p>○首はね跳び</p> <p>・ステージの上からゆっくり前転をして足を蹴りだそう。</p>  <p>5 できばえを確かめる。</p> <p>6 学習の振り返りをする。</p> <p>7 後片付けをする。</p>	<p>○台上前転</p> <p>マットで前転するときとの違いに注目し、体を浮かさなければうまく回れないことに気付かせ、水深調節台を使った場で、安全に取り組ませる。</p> <p>○首はね跳び</p> <p>ステージからゆっくりとひざを伸ばした前転で回り、補助をすることであおる感覚を体感させる。</p> <p>○新しい跳び越し方や、子どもが思考していたことを紹介し、全体で練習方法や場、考えたいことを共有する。</p> <p>○新たな視点や、工夫してがんばっていた子どもを紹介し、次時への学習意欲を高める。</p> <p>○安全に気をつけて友達と協力して後片付けを行わせる。</p> <p>◇友達と協力して後片付けをしようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p>
<p>ま と め</p>	<p>学習のまとめをする。</p> <p>○跳び箱運動の学習を通して学んだことは何か。</p> <p>○友達と協力して、跳び箱運動の楽しさをどこに感じる事ができたか。</p> <p>○自分なりのコツを見つけ、跳び箱を跳び越すことはできたか。</p>

○学びのあしあと

第1時（オリエンテーション）

場は、この前の時間が6年2組だったため、すでに準備されている状態から授業が始まった。全ての場を回り、どのようなものをどこに配置していくのかを確認した。

さらに、「どんな準備運動を行えばよいのか。」と投げかけると、子どもたちは「よく使う部分。」と答えた。「よく使う部分はどこだろう。」と聞き、腕や手首、足を中心に準備運動の行い方を確認した。

その後、ウサギ跳びを紹介し、みんなでやってみた。手と足を同時に着いている子どもがほとんどで、切り返した動きにはなっていなかった。「着くのは手か足だけだよ。」と伝え、もう少し時間を取った。子どもは、急にやりづらそうになり、手で自分を支えるということの難しさを感じていたようだった。

次に馬跳びをやってみた。「馬跳びをやってみよう。」と言うと、子どもたちは活動を始めた。現れを見ると、足を開いて着地している様子や、先ほどのウサギ跳び同様、手を着いた状態で跳び越している子どもも多く見られた。この日は、特にこれらなことには触れず、「跳んだ後に手をたたいてみよう。」と声をかけ、切り返しが自然にできるように行わせた。また、下の馬になっている子どもたちに、「手を着かれた瞬間に体をグッと持ち上げてみよう。」と伝え、活動を続けた。子どもたちは下から持ち上げられることで、人工的にフワッとした感覚を体感することができたようだった。

時間が20分ほどあったので、「フワッとする感じって自分の言葉で言うとどんな感じだろう。」と投げかけて子どもたちは活動を始めた。ステージに跳び乗る場、跳び下りる場に人が集まった。前単元が、走り幅跳びであったせいか、片足で踏み切る子どもが多く、両足のそろった踏み切りになっていない子どもがとて多かった。数をこなすうちに両足での踏み切りになっていったが、運動が苦手な子どもたちは、片足踏み切りが抜けず、跳び越せない状態が続いた。この日は、思い思いにフワッとした感じをつかんでももらいたく、特に特別なかわりはず、終了した。

子どもたちの感想には、フワッとした感じを自分の言葉で表したものは少なかった。しかし、多くの子どもは、フワッとした感じは味わえたことがわかった。中には、「宇宙空間にいる感じ」「空中に浮いている感じ」など、表現する子どももいた。また、フワッとする感じがわからなかった子どももいた。ここから、「さらにフワッとするためにはどうするのか。」「フワッとした感じを味わうためにはどうしたらよいのか。」などを手がかりに、次時から進めて行きたい。

第2時

前時の感想や、振り返りカードから、「フワッと感じるにはどうしたらよいのか。」「フワッとした感じを自分の言葉で表そう。」「自分の力だけでは、フワッとできないのだろうか。」の3点をテーマとして示し、学習をスタートした。

めあて①では、子どもたちの半分ほどがステージの場での活動を始めた。跳び越すことが怖い子どもは、一度跳び箱の上ののって、跳び下りる活動を繰り返していた。モノから働きかけられて活動している子どもの姿として、ステージに跳び乗るときには、トランポリンが弾みすぎて、自分の体を手で受け止められず、思わず回ってしまっていたり、手を着かずに跳び乗ったりしている姿も見られた。反対に、自分からモノに働きかけている子どもの姿も見られた。よりフワッとするために、踏み切りに注目して学習する子どもが数名いた。少しずつ表現は違うが、踏み切りの強さを意識して学習していることがわかる。これらの現れから、「切り返し」に対する意識が、子どもにはまだないことがわ

かる。

前時は片足での踏み切りが多く、なかなか安定しない様子も見られたが、繰り返し跳び越すことで、両足の踏み切りになっていった。安定して跳び越せていない何人かには、友達の踏み切りを見させ、両足の踏み切りに修正した。子どもたちの活動が少し落ち着いてきたので、一度子どもたちを集め、めあて①の振り返りをした。

第2時では、少しだけめあて②の活動も行った。もう少しでできそうな技に挑戦する上で、安心な場作りができないで時間が過ぎた。子どもたちの振り返りも、恐くて思い切った活動ができなかったというような感想が多く聞かれた。どんな場を選び、活動すればよいのかを一緒に考えていこうと確認し授業を終えた。

第3時

第3時では、「跳び方がちがうと、フワッとする感じもちがうのか。」「自分の力だけでフワッとすることはできないのか。」「クルッとを自分の言葉で表すと。」「フワッとするためのコツは何だろう。」と4点を示した。子どもたちは、テーマの中からめあてを選んだり、より具体的なめあてを立てたりした。着地に目を向けためあても増えてきた。

ステージの上で活動する子どもも少しずつ減ってきた。自分の力で、場から働きかけられる段階から、場に働きかける段階へと移行していると考えられる。ただし、ステージとフロアを行ったり来たりしている様子も見られ、感覚を確かめながら活動しているように見えた。跳び越せないまま過ごしていた子どもも、跳び越せない仲間や跳び越せる仲間とどうしたらよいのかを話し合いながら活動し、教師も補助をして、本単元がスタートして跳び越せていなかった5名のうち4名が跳び越せるようになった。この子どもたちは、めあて②でも同じ開脚跳びで跳び越していた。自分がなぜ、跳び越せていなかったのかを理解し、自分が何に気をつけながら跳べばよいのかを見つけられていた。子どもたちの活動も落ち着いていたところで、めあて②へと移行した。

めあて②では、かなり多くの子どもがハンドスプリングの技に興味をもち、取り組んでいた。ブロックマットから、セーフティマットへと思切り飛び込んでいく姿が見られた。何度か繰り返し、子どもたちも友達との動きの差（ドスンと落ちてしまう・勢いが止まらない）が感じられてきたところで、教師が補助をしつつ、「足をあおること」を伝えた。水深調節台を使った場も準備し、足をあおって浮く感じを体感できるようにした。また、ステージの場で台上前転に挑戦している子どもも多く、ステージに跳び乗る場を活用していた。

1 本時のねらい (4/7)

○今できる跳び越し方で「フワッと」「クルッと」「ピタッと」する感覚を楽しんだり、もう少しできそうな跳び越し方に挑戦したりして楽しむことができる。

2 本時の学習活動と支援

	学習内容と活動	教師の支援 (○)・評価 (◇)
な か 2 3 ④ 5 6 7	<p>1 学習の場づくりをして、準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自で必要な部位を考え、意識的にストレッチをする。 ・ウサギ跳び ・馬跳び (手たたき、ひねり、馬はじき) ・跳び乗り、跳び下り ・横跳び越し <p>2 本時のめあてと学習の進め方を確認する。 (味わわせたい感覚や気付かせたいコツについての問いかけの例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのコツを探そう。(フワッと・クルッと・ピタッと) ・フワッとと、ピタッとを同時に味わうことはできないのだろうか。 ・友達のコツは自分にも生かせるのだろうか。(同じなのだろうか。) <p>3 めあて①の活動をする。</p>	<p>○準備する場を決めておき、協力して行うように声をかける。</p> <p>○一つ一つの活動で、どんな感覚が味わえているのかを意識させ、感覚を楽しむことができるよう助言する。</p> <p>○めあてがもてない子どもが、めあてをもてるように、いくつか今日の視点を示す。</p> <p>○どうすれば体が浮くのか、ピタッと止まれるのか、それぞれのコツを考えながら学習に取り組むよう声をかける。</p> <p>◇夢中になって、浮く感じや、止まる感じを味わい、楽しんでいる。 【関心・意欲・態度】</p> <p>◇自分のめあてをもって、学習に取り組もうとしている。 【思考・判断】</p>
	めあて① 今できる跳び越し方で「フワッと」や「クルッと」、「ピタッと」する感覚を楽しむ。	
	<p>〈予想されるめあてと活動の例〉</p> <p>○ピタッと止まるためのコツを探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひざを柔らかく吸収してみよう。 ・足の裏全体で着地しよう。 <p>○踏み切りのコツを意識して、大きく跳び越したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強く踏み切って、体を浮かして跳ぼう。 ・踏み切り板に飛び込んで、体を浮かせて跳ぼう。 <p>○フワッと大きく跳び越して、ピタッと着地したい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開脚跳びでやってみよう。 	<p>○めあてを確認しながら、共に活動し、必要に応じて助言する。</p> <p>○場の安全を確保して、学習を進めるよう指導し、必要に応じて補助したり、補助の仕方について指導したりする。</p> <p>○子どもの感じていることを聞きながら、教師もやってみて感じたことを伝えたり、他の仲間が感じていたことを伝えたりする。</p> <p>○子どもが視覚的に、浮いた感じを見て捉えられることを求めるようであれば、マーカーシートを用意したり、踏み切り調節板の数に意識を向けさせたりする。</p>

・かかえこみ跳びでやってみよう。

4 めあて①の活動を振り返る。

5 めあて②の活動をする。

めあて② もう少しでできそうな跳び越し方に挑戦して楽しむ。

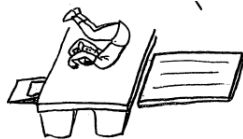
〈予想される跳び越し方と活動や場の例〉

○かかえこみ跳び

- ・跳び箱にぶつかりそうだから、セーフティマットを敷いてやろう。
- ・ステージの上に跳び乗るところからやってみよう。

○台上前転

- ・落ちるのが怖いから、水深調節台でやってみよう。

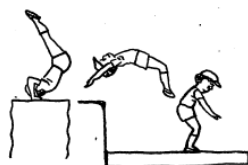


- ・安全に回れるように、横にセーフティマットを敷いてやってみよう。
- ・ステージの上でも回れるかな。



○首はね跳び・ハンドスプリング

- ・ステージの上からゆっくり前転をして足を蹴りだそう。



- ・ブロックマットを使って、足をあおる感覚を楽しもう。

○自分なりのコツが見つげにくい子どもには、掲示資料を見るように促し、友達のコツから、自分のコツを見つけられるよう助言する。

◇自分なりの運動のコツを探している。

【思考・判断】

○新たな視点や、工夫してがんばっていた子どもを紹介し、次時への学習意欲を高める。

○必要な場を協力して作るよう声をかける。

○活動と場が合っているのかを確認し、必要に応じて助言する。

○跳び越し方について、友達同士で伝え合ったり、掲示物を見ながら確認したりして、いろいろな跳び越し方で楽しめるよう助言する。

○共有したコツや自分なりのコツを生かして活動できるように助言する。

○場を変えて、新しい跳び越し方を試してみるように助言する。

○子どもの跳び越し方に合わせ、必要に応じて補助したり、補助の仕方を指導したりする。

◇自分のめあてを達成するために、共有したコツを生かしたり、場を選んだりしている。

【思考・判断】

○かかえこみ跳びに対する支援

ステージに跳び乗る場で、着手した場所よりも足が前に出るように声をかけ、浮く感覚を大切にしながら切り返すことができるようにする。

○台上前転

マットで前転するときとの違いに注目し、体を浮かさなければうまく回れないことに気付かせ、水深調節台を使った場で、安全に取り組みさせる。

○首はね跳び・ハンドスプリング

ステージからゆっくりとひざを伸ばした前転で回り、補助をすることであおる感覚を体感させる。ブロックマットでも同様に、あおる感じを味わえるように補助や助言をする。

	<p>6 学習の振り返りをする。</p> <p>7 後片付けをする。</p>	<p>○新しい跳び越し方や、子どもが思考していたことを紹介し、全体で練習方法や場、考えたいことを共有する。</p> <p>○安全に気をつけて友達と協力して後片付けを行わせる。</p>
--	--	---